



ウ ナ ギ

西洋ウナギはベルムダ島に近い深海の水圧で卵が母体（母体はそこで死ぬ）から押し出され受精して生れ、それから3年もかかって大西洋を横断してヨーロッパにたどりつくものと、デンマークのシユミット博士により判明した。日本でとれるウナギの産卵場所は定かでない。南北アメリカの太平洋岸，南アメリカの大西洋岸，アフリカ西海岸，インド洋の北西部に面した国々には，ウナギはいない。

昭和33年の全国のウナギの漁獲高は2,801トンで，うち本県は588トンで全国一である。2位は千葉県298トン。県内では波崎町が126トン，出島村37トン，大野村21トン，神栖村16トン，潮来町11トンの順である。

日本では土用の（うし）の日に好んで食べるが，ドイツでは夏至（げし）に食つてはならないとされている。ウナギは虚空蔵菩薩の使者といわれ，これを守り本尊としている人はウナギを食べない。